

まえがき

タイトルの「甘蕉」は「川を見るバナナの皮は手より落ち」に由来します。また、この句は「市民俳句大会」に初めて参加した時に出句した思い出の句でもあります。孟夏の眩しい日差しが蘇ります。

俳句を始めてから、日々の何気ない景色にも心を留めるようになりました。

季節の移ろい、草花の姿、人との出会い、ふとした出来事。

それらを十七音に託すことで、過ぎ去った時間がもう一度、静かに立ち上がってくるように感じます。

振り返れば、句作は私にとって、日々を見つめ直す大切な時間でもありました。

この一冊には、その折々の思いをそのまま残しております。

古いものから新しいものまで、拙いものも多くあります。句作十年目に入ります。ひとつの区切りとして俳句集を仕上げました。読んで頂ければ幸いです。

ワンポイント

まえがきのコツ

俳句集を出すにあたっての動機や主旨を記します。